



# ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

No.102

March 2020

応用地域学会ニュースレター

## CONTENTS

1. 2020-2021年度 運営委員選挙案内
2. 第33回研究発表大会報告
3. 第34回研究発表大会のご案内
4. 2020 Asian Conference in Regional Science  
(第10回アジア地域科学セミナー)のご案内
5. 2019年度坂下賞
6. 2019年度応用地域学会論文賞
7. 会員の入退会について
8. 2020年度会費納入のお願い
9. 総会報告
10. 事務局だより

## 1. 2020-2021 年度運営委員選挙案内

選挙管理委員 猪原 龍介(亜細亜大学)

宮川 雅至(山梨大学)

ARSC 会則第8条および内規Iにしたがって、第16期(2020年4月1日から2022年3月31日まで)運営委員の選挙を行います。

投票は、別途郵送の選挙葉書により、3名連記の投票をお願いいたします。(別添の運営委員選挙の案内に従って投票をお願いします。)

**投票の締め切りは、2020年3月21日(土) (当日消印有効)です。**

この運営委員選挙の管理委員は、応用地域学会選挙内規I第3条に従い、会長指名により、亜細亜大学の猪原龍介と山梨大学の宮川雅至が務めます。

## 2. 第33回研究発表大会報告

第33回大会実行委員長 亀山 嘉大 (佐賀大学)

### (1) 大会概要

2019年11月23日(土・祝)、24日(日)に佐賀大学本庄キャンパスで、第33回 応用地域学会 (ARSC) 研究発表大会 (佐賀大会) を開催しました。2日間にわたる大会期間中、研究発表セッション (Early Bird セッション、一般セッション、特定セッション) で各会員による研究報告がなされるとともに、一般公開セッション、坂下賞受賞講演、学会総会が開催されました。

大会の実施・運営は、ARSC 会長である大澤義明先生 (筑波大学) と学会事務局の協力のもと、私と羽石寛史先生 (佐賀大学)、田村一軌先生 (アジア成長研究所)、小林隆史先生 (立正大学) からなる大会実行委員会が担当しました。研究報告のプログラム編成は、中島賢太郎先生 (一橋大学) を委員長として、伊藤亮先生 (東北大学)、高山雄貴先生 (金沢大学)、瀬谷創先生 (神戸大学) に、実行委員会から私と小林先生が入ったプログラム委員会が担当しました。なお、本大会の開催に当たっては、佐賀大学経済学部の共催事業として施設利用などで開催支援を受けました。

開催期間中は、2日目の午前中に雨が降りましたが、大きく天気が崩れることはなく、研究発表セッションでは、会員・非会員を合わせて180名前後の参加があり、3つの一般公開セッションで延べ約130名の一般聴衆の参加がありました。以下では、研究発表セッション、一般公開セッション、坂下賞受賞講演、学会総会、学会懇親会の概要を紹介します。

### (2) 研究発表セッション

研究発表セッション (Early Bird セッション、一般セッション、特定セッション) では、2日間で合計73編の研究論文のエントリーがあり、急病などによる欠席を除く71編が報告されました。研究発表セッションは、ARSC 会員の研究論文・研究成果の報告で構成されており、研究テーマに応じて、4~5つのパラレルセッションのもと運営がなされました。

Early Bird セッションは、大学院生による研究論文の報告を集めたセッションであり、大学院生の Job Market としての役割に加えて、本格的な研究活動を開始した若手研究者に対して、ベテランの研究者が種々のアドバイスを与えつつ、独り立ちした研究者として育つよう鼓舞する場としての役割も持ち合わせています。今大会では、14編の報告申し込みがあり、将来の地域科学分野における研究活動を担う有望な若手研究者による報告がなされました。また、今大会から「若手研究者育成と学会活性化」の推進を目的として、Early Bird セッションの発表論文を対象に「最優秀学生論文賞 (かささぎ賞)」を創設しまし

た。当日の発表は、対象論文の最終審査の場になったため、報告者の緊張感はさらに高まったものと思います。

一般セッションでは、応用地域学会の研究対象である「都市集積」、「都市構造」、「NEG理論」、「地域格差」、「不動産」、「交通」などのセッションの他、「ジェンダーと労働市場」、「CGE」、「開発経済」、「購買行動」、「財政」、「災害」、などのセッションも開催されました。Early Birdセッションでは「プログラム評価」のセッションが開催されました。また、近年のインバウンドブームを反映して「観光」のセッションが2つ開催されました。各セッションでは、当該テーマを研究している複数の専門家による研究成果が発表されました。いずれのセッションにおいても、最新の研究成果が発表されるとともに、討論者やフロアの参加者から多くの質問やコメントが寄せられ、大変活気のある研究発表大会になったと考えております。

特定セッションでは、「九州の地方創生と国際化・イノベーション」と「都市間交通」の2つの企画が実施されました。「九州の地方創生と国際化・イノベーション」は、独立行政法人経済産業研究所（RIETI）のファカルティフェローである浜口伸明先生（神戸大学）のイニシアティブのもとRIETI企画として運営されました。「都市間交通」は、学会副会長の奥村誠先生（東北大学）と前回大会の実行委員長奥田隆明先生（南山大学）のイニシアティブのもと運営されました。

### (3) 一般公開セッション

応用地域学会では、例年、研究発表大会が開催される地域の問題を取り上げて、一般公開セッションを開催しています。今大会では、学会会長の大澤先生の強い想いである「研究の社会還元と学会活性化」の推進を目的に、「モビリティイノベーションの最前線」、「鉄道高速化は若者の未来を変えるのかー若者の進路・通学・居住地の意思決定ー」、「Jクラブ・大学・地域の連携が切り拓く地方創生」の3つの企画が実施されました。

「モビリティイノベーションの最前線」は、大澤先生のイニシアティブのもと筑波大学の企画として運営されました。人口減少と高齢化に直面している地方都市におけるMaas (Mobility as a service) など新しいモビリティ・サービスの事業展開に向けて、人工知能や自動運転をはじめどのような技術を活用したどのような交通システム、さらには、どのような街づくりが必要なかが議論されました。

「鉄道高速化は若者の未来を変えるのかー若者の進路・通学・居住地の意思決定ー」は、開催校（佐賀大学）の企画として運営されました。新幹線西九州ルートの開通によって、博多ー佐賀間のJRの特急電車区間は第3セクターの普通電車区間に変換することが想定される。これによって、博多ー佐賀の沿線の若者の進路はどのように変化するのか、それを見据えて、佐賀大学はじめ各大学は学生の獲得のためにどのような対応が必要なかが議論されました。

「Jクラブ・大学・地域の連携が切り拓く地方創生」は、筑波大学と佐賀大学、鹿島アントラーズとサガン鳥栖の共同企画として運営されました。元鹿島アントラーズのJリーガー中田浩二氏（筑波大学）が

大学院生として研究している「スマートスタジアム+Jリーガーキャリアパス」に関する報告、元Jリーガー八角剛史氏（福岡地域戦略推進協議会）の「防災×スポーツ」に関する報告を下敷きに、現役Jリーガー高橋秀人氏（サガン鳥栖）、さらに、筑波大学、佐賀大学、鹿島アントラーズの関係者を交えて、Jクラブ・大学・地域の連携によって、人材育成、防災、交通…街づくりなどいろいろな方面で成果を上げていける可能性が議論されました。

#### (4) 坂下賞受賞講演

坂下賞は、応用地域学会の創設者である故坂下昇先生の本学会に対するご功績を称え、2004年度に創設されました。本賞は、地域科学研究の発展に顕著な貢献をした、満40歳以下の若い研究者を顕彰することを目的としています。

今大会では、2018年度の坂下賞受賞者である伊藤亮先生（東北大学）から、“A New Framework for Input-output Analysis in Modern Spatial Economics”という論題でご講演いただきました。

この講演では、産業連関表の1つである他地域連関表のビッグデータ化を背景に、新しい非線形モデル（新しい一般均衡貿易モデル）の線形近似化によって、伝統的な産業連関モデルの長所を活かした分析が可能になることが提示されました。具体的な産業連関表の活用の仕方は、Krugman（1980）の独占的競争モデル（NEGモデル）に導入した場合、さらに、Eaton-Kortum（2002）のリカード型貿易モデルに導入した場合の2通りの分析方法の説明がなされました。これらの分析手法の開発によって、供給サイドのショックや厚生・便益の取り扱い可能となっています。興味深い点は、NEGの場合、集積の経済があることでLeontief-Isardと異なった分析結果が得られるのですが、リカード型貿易モデルの場合、Leontief-Isardと整合的な分析結果が得られていることです。非線形モデルを線形化させることで生じるバイアスの検証もなされており、災害によるサプライチェーンの変化など供給サイドのショックを産業連関分析でも分析できる可能性が示されたのは、理論的にも現実的にも有意義なものと考えます。

なお、伊藤先生は、動学的な複数地域モデルを用いた経済成長と経済活動の空間的分布の変遷に関する理論的研究において、動学モデルの定常状態の近傍だけでなく、モデルの大域的な振る舞いを見ることで、長期的な経済発展に関するいくつかの重要な示唆を得ていることが評価されて、坂下賞を受賞されています。

#### (5) 学会総会

坂下賞受賞講演の終了後、2019年度の学会総会が開催されました。総会では、会員動態の報告を端緒に、2018年度決算および2019年度予算の報告がなされ、いずれも承認されました。ジャーナルの編集や出版の状況および今後の方針の報告がなされました。次に、坂下賞の受賞者と応用地域学会論文賞の受賞論文が報告されるとともに、それぞれの授与式が執り行われました。

2019年度の坂下賞の授賞者は、高山雄貴先生（金沢大学）であることが、選考委員長の村田安寧先生（日本大学）の報告書をもとに発表されました。受賞理由は、交通経済学で交通混雑の理論、空間経済学で多地域経済における集積形成の理論に関して、先駆的な研究を行っており、なかでも、離散フーリエ解析を応用した多地域経済における集積形成の理論分析枠組みを開発し、多数の集積形成を含む経済集積パターンで系統的な解析を初めて可能にしたことが評価されたものです。この研究成果によって、従来の都市・地域・空間経済学において、地域間距離の多様性を捨象した2地域モデルや都市システムモデルに限られていた厳密な解析が多数の集積形成を含む経済集積パターンでも可能となりました。

2019年度の応用地域学会論文賞の受賞論文は、川脇康生先生（関西国際大学）の研究論文“Economic Analysis of Population Migration Factors Caused by the Great East Japan Earthquake and Tsunami”（*Review of Urban & Regional Development Studies*, 第30号第1巻, 2018年の掲載論文）であることが、選考委員長の河野達仁先生（東北大学）から報告されました。この論文は、東日本大震災の3年後に被災地住民を対象として実施した意識調査の個票データをもとに移住要因を分析したものです。特に、居住市町村内移住と居住市町村外移住を区別して分析した結果、非持ち家、高所得、若年層が居住市町村外移住に効果があることを明らかにしています。被災地では、居住市町村外への人口流出が課題となっていますが、その要因が示されており、政策的にも意義ある研究であることが評価されました。

最後に、次年度の第34回研究発表大会は、2020年11月28日（土）～29日（日）の日程（調整中）で、金沢大学角間キャンパスにおいて中山晶一郎先生（金沢大学）を実行委員長として開催されること、また、第10回アジア地域科学セミナーは、2020年10月9日（金）～11日（日）の日程（調整中）で、つくば国際会議場において堤盛人先生（筑波大学）を実行委員長として開催されることが報告されました。

## (6)学会懇親会

例年、大会初日に開催される懇親会を佐嘉神社記念館で実施しました。冒頭、地元の経済界を代表して、日本銀行佐賀事務所長の蔵本雅史氏からご挨拶をいただくとともに、会長の大澤先生より乾杯のご発声をいただきました。懇親会では、2019年度の坂下賞を受賞した高山先生や応用地域学会論文賞を受賞した川脇先生から、それぞれご挨拶をいただきました。

また先述のように、今大会から、「若手研究者育成と学会活性化」の推進を目的として、Early Birdセッションの発表論文を対象に「最優秀学生論文賞」が創設されました。提出論文に基づく事前審査と当日の報告を踏まえて、2019年度の応用地域学会最優秀学生論文賞（かささぎ賞）の受賞論文は、相場郁人氏（東京大学）の研究論文“Information Technology, Market Congestion, and Economic Geography”に決定したことが、プログラム委員長で選考委員長である中島先生から報告されるとともに、授与式が執り行われました。

その後、次年度の第34回 応用地域学会 金沢大会の実行委員長である中山先生にご挨拶をいただき、最後は、副会長の奥村先生から中締めのご挨拶をいただきました。

### 3. 第34回研究発表大会のご案内

ARSC 事務局

2020年度のARSC研究発表大会は、金沢大学が開催校となり、大会実行委員長中山晶一郎教授を中心に、下記要領にて実施いたします。奮ってのご参加をお願い申し上げます。

#### 大会概要

日 程：2020年11月28日(土)～29日(日) \* 総会、懇親会は11月28日を予定

会 場：金沢大学角間キャンパス (大会実行委員長 中山 晶一郎 教授)

発表申込先、および受付開始時期などを含む詳細については、ARSC NEWS 次号(2020年6月発行予定)、メーリングリスト、ホームページ(予定)で、ご案内していきます。

### 4. 2020 Asian Conference in Regional Science

#### (第10回アジア地域科学セミナー)のご案内

ARSC 事務局

アジア地域科学セミナーは、アジア諸国における地域科学の研究発展と交流を促進するために、応用地域学会(ARSC)、台湾地域学会(CRSA)、中国地域学会(RSAC)、韓国地域学会(KRSA)が共催して行い、第2回より、各国持ち回り開催となっております。

第10回となる今年は、2020 Asian Conference in Regional Science として、2020年10月9日(金)～11日(日)、筑波大学を幹事校として、応用地域学会の主催でつくば国際会議場において開催されます。

詳細は下記のホームページとCall For Papersをご覧ください。

2020 ACRS ホームページ: <http://sp.sk.tsukuba.ac.jp/ACRS/index.html>

Call For Papers: <http://sp.sk.tsukuba.ac.jp/ACRS/cfp.pdf>

#### 2020 Asian Conference in Regional Science 開催概要

\* 日程：2020年10月9日(金)～11日(日)

\* 場所：つくば国際会議場(茨城県つくば市竹園2丁目20-3)

\* アブストラクトの提出締切：2020年3月31日

\* 発表論文の提出締切：2020年7月31日

\* 参加費：一般18,000円、学生10,000円

## \* お問い合わせ

実行委員会アドレス: [acrs2020@sk.tsukuba.ac.jp](mailto:acrs2020@sk.tsukuba.ac.jp)

## 5. 2019 年度坂下賞

2019 年度坂下賞選考委員会 委員長 村田 安寧 (日本大学)

2019 年度の坂下賞は、金沢大学理工研究域 准教授 高山 雄貴氏に決定しました。坂下賞の表彰は、11 月 23 日応用地域学会総会の中で行われ、高山氏には、大澤義明会長から、表彰盾と金一封が授与されました。

### 2019 年度 坂下賞 受賞者

高山 雄貴 (金沢大学理工研究域 准教授)

### 授賞理由

高山雄貴氏は、交通経済学では交通混雑の理論、空間経済学では多地域経済における集積形成の理論について先駆的な研究を行ってきた。その成果として国際雑誌・国内雑誌にそれぞれ 13 編・36 編の論文が査読を経て掲載されている。2015 年に Transportation Research B に掲載された論文では、Henderson (1981) による古典的研究の一般化に取り組み、Vickrey (1969) 型のボトルネック混雑モデルを採用するとともに、企業による始業時刻選択を離散的に取り扱うなど、既存の研究に比べてより現実的な定式化を行った。このような定式化は解析上の困難を伴うが、ポテンシャルゲームの理論を援用することにより、均衡解の理論的特性を見通しよく導出することに成功している。2017 年に Journal of Urban Economics に掲載された論文は、これまで静学分析に終始していた交通混雑と土地利用に関する研究の動学化に取り組んだものであり、動的な交通混雑を適切に記述するボトルネックモデルを用いて分析した結果、混雑料金を課することにより土地利用がより分散化するという、静学分析とは反対の興味深い結果を得ている。2012 年に Journal of Economic Dynamics and Control に掲載された論文では、離散フーリエ解析を応用した多地域経済における集積形成の理論分析枠組みを開発し、厳密解析が地域間距離の多様性を捨象した 2 地域モデルや都市システムモデルに限られてきた従来の都市・地域・空間経済学において、多数の集積形成を含む経済集積パターンについて系統的な解析を初めて可能にした。

高山氏は現在、土木工学・都市計画及び経済学を横断する研究グループの中心的メンバーとして、多地点・地域経済における汎用的な解析枠組みの開発を進めるとともに、それを用いて都市内の都心形成/土地利用、広域地域経済における産業・人口の空間的コーディネーション及び、それらの知見を生かした高速道路整備効果等の具体的な政策分析について研究を進めている。これまでの業績に加え、学際性が強みである応用地域学会のリーダーとしてふさわしい人物であると考え、よって 2019 年度坂下賞を高山雄貴氏に授与することとする。

2019 年度 坂下賞選考委員会 委員長 村田 安寧（日本大学）  
委員 松島 格也（京都大学），森 知也（京都大学）  
大澤 義明（ARSC 会長），奥村 誠（ARSC 副会長）

## 6. 2019 年度応用地域学会論文賞

2019 年度論文賞選考委員会 委員長 河野 達仁（東北大学）

選考委員会では、応用地域学研究ならびに RURDS に掲載された学会員の論文を対象に、慎重に審議した結果、2019 年度の応用地域学会論文賞は下記の論文に授与することとなりました。応用地域学会論文賞の表彰は、11 月 23 日応用地域学会総会の中で行われ、著者の川脇 康生氏（関西国際大学経営学部教授）に、大澤義明会長から、表彰楯が授与されました。

### 2019 年度 応用地域学会論文賞 受賞論文

論文名：ECONOMIC ANALYSIS OF POPULATION MIGRATION FACTORS CAUSED BY THE GREAT EAST JAPAN EARTHQUAKE AND TSUNAMI

掲載誌：Review of Urban & Regional Development Studies 30(1) (2018) pp. 44-65

著者：Yasuo Kawawaki (Kansai University of International Studies)

### 授賞理由

本論文は、研究者のみならず多方面から関心を集めている東日本大震災後の人口減についてその要因を詳細に分析したものである。特に、他の類似研究とは異なり、個票データを用いた分析に特長がある。著者は、災害に関する研究にこれまでも注力しており、これまでの著者の研究知見も多く取り入れられている。本研究は、震災 3 年後に被災地住民を対象とした意識調査を用いて、移住要因を探っている。その結果、居住市町村内移住と居住市町村外移住の要因の違い（例えば、所得要因が後者のみに効く）を得ている。また、非持ち家、高所得、若年層が居住市町村外への移住の要因であること等、詳細に要因が分析されている。他にもオリジナルの結果が多く示されており、人口維持を政策目標としている多くの被災地に有益な情報を与える研究である。以上のように本研究は大変高く評価でき、応用地域学会賞にふさわしいと認められる。



2019 年度論文賞選考委員会 委員長 河野 達仁（東北大学）

委員 浅田 義久（日本大学），城所 幸弘（政策研究大学院大学）

大澤 義明（ARSC 会長），奥村 誠（ARSC 副会長）

## 7. 会員の入退会について

### ARSC 事務局

2019 年度応用地域学会総会（2019 年 11 月 23 日）において、2018 年度総会以降に入退会を申請された以下の方々の入退会が承認されました（順不同・敬称略）

入会：

（一般 10 名）上野 賢一（国土交通省），羽石 寛志（佐賀大学），山崎 潤一（神戸大学），山口 裕之（茨城県庁），土居 直史（小樽商科大学），川口 明子（公益財団法人日本交通公社），山口 裕通（金沢大学），野方 大輔（日本大学），MENDEZ Carlos（名古屋大学），川口 大司（東京大学）

（学生 12 名）渡司 悠人（筑波大学），鐘 岱（筑波大学），佐藤 峰（名古屋市立大学），相場 郁人（東京大学），Felipe Santos-Marquez（名古屋大学），金子 侑樹（筑波大学），Anang Budi Gunawan（名古屋大学），潘 鋭（東北大学），菅原 優志（広島大学），Tahmina Shahzadi（佐賀大学），矢田 海有（東京都市大学），加古 捺巳（筑波大学）

同時に以下の方々の退会が承認されました（順不同・敬称略）

退会：

（一般 17 名）阿部 宏史（岡山大学），有馬 昌宏（兵庫県立大学），細野 助博（中央大学），岡部 篤行（青山学院大学），田中 利彦（熊本学園大学），徳岡 一幸（同志社大学），平岡 規之（株式会社三菱総合研究所），麻生 憲一（奈良県立大学），井上 智之（財団法人尼崎地域・産業活性化機構），阪田 和哉（宇都宮大学），大倉 真（EagleCapital 株式会社），阿部 秀明（北海商科大学），中村 勝之（桃山学院大学），嶋本 宏征（株式会社建設技術研究所），宮澤 和俊（同志社大学），彭 雪（佛山市都市計画・勘測設計研究院），南 博（北九州市立大学）

（学生 4 名）小林 すみれ（東京外国語大学），遠藤 圭介（株式会社 タス），郭 浪しよ（筑波大学），羅 雁劫（慶應義塾大学）

（物故会員 1 名）盧 向春（東北大学）

この結果、2019年11月22日現在の会員数は、下表のとおりとなりました。

一般会員 416 人、学生会員 61 人、海外会員 4 人、賛助会員 5 法人(7 口))

		2018/12	入会	退会	転格	復会	2019/11/22
個人会員	一般会員	422	10	-18	2	0	416
	学生会員	55	12	-4	-2	0	61
	海外会員	4	0	-0	0	0	4
	合計	481	22	-22	-	0	481
賛助会員		5 (7 口)	0	0	-	-	5 (7 口)

## 8. 2020 年度会費納入のお願い

ARSC 事務局

会員データベース（2020年2月21日現在）に基づいて発行された請求書をお送りしています。

ご請求額を2020年5月31日までに応用地域学会の郵便振替口座(00120-1-253855)にお振込み下さい。

送られた請求額について疑義のある場合には、学会事務局まで、メール(clerk@arsc.org)にてお問い合わせ下さい。なお、お振込みの際には、ご面倒でも通信欄に振込金額の内訳（対象年度等）を必ずご記入下さい。

皆様それぞれの会費納入状況は、ARSC ホームページ(<http://www.arsc.org/>)の会員ページ(会員ログイン)で、確認できます。(会員ページにログインできない方は、上記学会事務局にお問い合わせください。)

### (1) ARSC 会費

2020 年度会費は、一般会費 10,000 円、学生会員 5,000 円、賛助会員 1 口 50,000 円です。

また、海外会員(日本人の短期滞在者を除く)の年会費は\$60 です。なお、海外会員でも国内会員と同等とする場合は、10,000 円となります。

\* 海外からのお支払いの場合は、日本国内の知人等を経由して日本円でお支払い頂くのが最善ですが、それが不可能であれば、国際郵便為替、または各国の銀行で振り出された US ドル建ての小切手をご利用下さるようお願いいたします。

### (2) RSAI(国際地域学会)会費

2020 年の RSAI 会費は、一般会員 1,300 円、学生会員 1,300 円 です。

## <RSAI 会費とサービス>

RSAI の会員に対するサービスは、以下のようになっております。応用地域学会を通じて、RSAI 会員である方は、ARSC 会費と合算してお振込みください。払込票通信欄には、送金内訳を記入してください。

なお、2015 年から、RSAI の会員サービスが変更となり、ジャーナル等のプリントの郵送サービスが廃止され、オンラインサービスのみとなりました。

(2015 年から、従来の RSAI のプリント郵送サービスを受ける会員区分 A は無くなり、オンラインサービスを受ける会員区分 B のみとなり、従来の会員区分 A の方は、会員区分 B に変更しております。)

### <RSAI のサービス内容 >

- ・Papers in Regional Science(PiRS)、ニュースレター等のオンラインサービス
- ・RSAI ホームページへのアクセス
- ・RSAI の会議への参加費割引
- ・メンバーリストへのアクセス
- ・Journal of Regional Science などの Wiley-Blackwell 社の雑誌の購読料割引と関連出版物の詳細情報の提供

## <RSAI 会員の継続・入退会について >

ARSC を通じての RSAI への入退会は、年 1 回、12 月までに、翌年のメンバーリストを提出することでなされますので、毎年 11 月頃に、入退会・継続、登録情報変更のご案内をいたします。

従来からの RSAI 会員の方は、特に退会の申し出のないかぎり会員を継続されると判断します。また、学生から一般への変更は、国内会員の移動転格に合わせます。

なお、日本地域学会の会員は自動的に RSAI に登録されていますので、本会との二重登録にご注意ください。

## 9. 総会報告

ARSC 事務局

2019 年度の総会は、大会中の 11 月 23 日（土）に行われました。概要は以下の通りです。

### (1) 活動報告ならびに活動方針

大澤義明会長より、学会の活動報告と今後の活動方針が発表された。

### (2) 会員動態

浜口伸明総務担当運営委員より、2018 年度総会以降（2018 年 12 月 1 日～2019 年 11 月 22 日）の入退会希望者（前掲）が報告され、承認された。なお退会者については、会費の長期滞納による退会者が含まれ

る。

(3) 2018 年度決算及び 2020 年度等予算（末尾の表を参照）

石倉智樹会計担当運営委員より、2018 年度決算報告および 2020 年度予算案が提示され、原案どおり承認された。

(4) ジャーナルの編集・出版状況及び今後の方針

①応用地域学研究

編集委員長より、22 巻発刊の報告および 23 巻の進捗状況が報告された。J-Stage への移行準備中であることが報告された。

②RURDS

編集委員が欠席のため、奥村副会長より、2019 年の 1 年で、Wiley の web page にて 1 と 2 の合併号および 3 号、計 12 篇の論文を刊行したことが報告され、投稿や査読等で協力いただいた方々に心より御礼申し上げますという編集委員一同からのメッセージが読まれた。

(5) 2019 年度坂下賞（前掲）

2019 年度坂下賞は、金沢大学理工研究域 准教授 高山 雄貴氏に授与された。

(6) 2019 年度応用地域学会論文賞（前掲）

2019 年度応用地域学会論文賞は、川脇康生氏（関西国際大学経営学部）の論文“ECONOMIC ANALYSIS OF POPULATION MIGRATION FACTORS CAUSED BY THE GREAT EAST JAPAN EARTHQUAKE AND TSUNAMI,” Review of Urban & Regional Development Studies 30(1) (2018) pp. 44-65 に授与された。

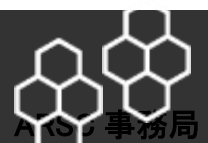
(7) 2020 年度研究発表大会の開催について（前掲）

(8) 2020 Asian Conference in Regional Science（第 10 回アジア地域科学セミナー）の開催について（前掲）

(9) その他

① 奥村副会長より、2020 年 2 月～3 月に ARSC 会則第 8 条および選挙内規にしたがって、2020 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの運営委員選挙を実施することが周知された。

## 12. 事務局だより



### 第 33 回 ARSC 研究発表大会

第 33 回 ARSC 研究発表大会は、佐賀大学の本庄キャンパスで開催されました。大会委員長の亀山嘉大先生をはじめとし、大会運営委員の羽石寛史先生、田村一軌先生、小林隆史先生のご尽力により、大変素晴

らしい大会となりました。また、プログラム委員長を務められた中島賢太郎先生（一橋大学）とプログラム委員の先生方、また様々な側面でご協力いただきました皆様に、深く感謝申し上げます。

## 事務局からのお願い

◆会員登録情報の変更をお願いいたします。新しい年度への移り変わりの時節、勤務先の異動、就職など、皆様の会員登録の内容を変更される方も多々いらっしゃると思います。登録情報に変更が生じた場合は、速やかに、ARSCホームページにある「会員ページ」<<https://service.kktes.co.jp/smms2/loginmember/arsc>>にログインし、変更登録をお願い申し上げます。ログインID、パスワードをお忘れの方は、事務局<[clerk@arsc.org](mailto:clerk@arsc.org)>にお問い合わせください。住所・メールアドレス等が変更登録されていないと、ジャーナルや、ニュースレター等が不達になるケースが多々生じておりますので、重ね重ねですが、速やかな変更登録をお願いいたします。

◆地域科学に関連する分野の研究に興味を持たれている個人、または団体が周囲に居られましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。入会申込は、web上で行えます。ARSCのホームページ(<http://www.arsc.org>)より、「新規入会」のページにアクセスし、必要事項を記入し、送信してください。

◆事務局やニュースレター等に対しまして、ご意見や新しい企画等ございましたら、是非、お知らせください。

## 編集 後記

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大により、生活に様々な影響が出ているという方もいらっしゃると思います。日経平均株価の大幅下落など暗いニュースばかりです。これ以上感染が広がらないことを願うばかりです。

新型コロナウイルスの予防は、手洗い、うがい、咳エチケットなど、インフルエンザの予防と同じような方法です。私も今、人生で一番手洗いをしているような気がします。おかげで、去年は花粉症と風邪が同時にきて地獄を味わいましたが、今年は全く風邪もひかず、インフルエンザにもかからずいつもより健康な気さえます。少しでもポジティブな気持ちで、この状況を乗り切りたいものです。(AM)

## ARSC NEWS No.102 (2020年3月発行)

発行元 応用地域学会事務局 (文部科学省学会コード=10023)

会長: 大澤 義明

ARSC NEWS 担当: 奥村 誠 (副会長) / 曾 道智 (渉外担当幹事) / 光井 明日香 (事務局)

〒162-0805 東京都新宿区矢来町 126 NITTO ビル (株)メッツ研究所内

TEL: 03 (5227) 7804 / FAX: 03 (5227) 7807

Email: [clerk@arsc.org](mailto:clerk@arsc.org) / 学会 HP: <http://www.arsc.org/jp/>

2018 年度決算

2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)決算

収入の部	2017決算		2018予算		2018決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	2,586,997		3,712,353		3,712,353	
2.個人会費収入	4,823,100		4,515,700		3,895,800	
3.RSAI会費	221,000		213,200		173,500	
4.賛助会費収入	400,000		400,000		50,000	
5.補助金等	0		0		0	
6.利子収入	8		0		11	
7.雑誌販売(Back Number)	0		30,000		14,250	
8.その他			0		3,000	
収入合計	8,031,105	0	8,871,253		7,640,914	
(繰越金を除く収入合計)	5,444,108	0	5,158,900		4,136,561	

支出の部	2017決算		2018予算		2018決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS刊行・購読費 (購読費)	3,142,798		3,183,125		3,127,863	
(編集経費等)	3,135,298		3,062,400		3,110,818	
	7,500		120,725		17,047	
2.年報刊行費	0		1,391,060		541,080	
3.大会開催補助 (年次大会)	-119,518		200,000		-81,811	
(アジア地域科学セミナー)	-119,518		200,000		-81,811	
	0		0		0	
4.RSAIへの送金	216,230		213,200		198,809	
5.坂下賞	122,140		122,000		122,140	
6.論文賞	19,116		20,000		19,116	
7.ニューズレター等印刷費	0		5,000		0	
8.一般事務費	203,835		330,000		316,855	
(郵送費)	100,549		120,000		99,179	
(消耗品等)	758		20,000		9,384	
(会費・交通費等)	99,210		175,000		204,448	
(銀行手数料)	3,318		15,000		3,944	
9.事務局費	734,153		855,000		852,582	
(事務管理・事務員費)	550,000		550,000		550,000	
(会員管理システム費)	184,153		185,000		182,582	
(アルバイト費)			120,000		120,000	
10.予備費	0		0		0	
支出合計	4,318,752	0	6,319,405	0.00	5,098,736	
繰越金	3,712,353	0	2,551,848	0.00	2,752,178	
ドル貨円換算(手数料を除く)			0			
繰越金合計	3,712,353	0	2,551,848	0.00	2,752,178	
	1,125,356				-960,175	

注1: 2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費は、円に換金して円口座に入金。

注2: 2016年度決算より、海外会員ドル貨会費は、円貨に換算(換金手数料差引)し、個人会費に合める。

監査の結果、決算は適正になされていることを認めます。

2019年11月7日

監査委員

米本 清 

2019年11月11日

監査委員

田村 一軌 

## 応用地域学会2020年度予算書

収入の部	2018FY決算	2019FY予算	2020FY度予算
1.繰越金	3,712,353	2,752,178	2,752,178
2.個人会費収入	3,895,800	4,540,700	4,607,740
3.RSAI会費	173,500	214,500	208,000
4.賛助会費収入	50,000	400,000	400,000
5.補助金など	0	0	0
6.利子収入	11	0	0
7.雑誌販売(Back Number)	14,250	30,000	30,000
8.その他	3,000	0	0
収入合計	7,848,914	7,937,378	7,997,918
(繰越金を除く収入合計)	4,136,561	5,185,200	5,245,740

支出の部	2018FY決算	2019FY予算	2020FY度予算
1.RURDS購読費	3,127,865	2,554,680	0
(購読費)	3,110,818	2,354,680	0
(諸経費等)	17,047	200,000	0
2.年報刊行費	541,080	850,000	850,000
3.大会開催補助	-81,811	200,000	920,000
(年次大会)	-81,811	200,000	200,000
(地域科学セミナー)	0	0	720,000
4.RSAIへの送金	198,809	214,500	208,000
5.坂下賞	122,140	122,000	122,000
6.論文賞	19,116	20,000	21,000
7.ニューズレター等印刷費	0	5,000	5,000
8.一般事務費	316,955	330,000	330,000
(郵送費)	99,179	120,000	120,000
(消耗品等)	9,384	20,000	20,000
(会議費・交通費等)	204,448	175,000	175,000
(銀行手数料)	3,944	15,000	15,000
9.事務局費	852,582	885,000	835,000
(事務管理費)	550,000	600,000	600,000
(会員管理システム費)	182,582	185,000	185,000
(アルバイト費)	120,000	100,000	50,000
10.予備費		4,020	1,954,740
支出合計	5,096,736	5,185,200	5,245,740
繰越金	2,752,178	2,752,178	2,752,178
収支差	-960,175	0	0